

2022年12月期 第2四半期業績 説明会資料



AGC株式会社

2022年8月2日

Your Dreams, Our Challenge

2022年12月期 第2四半期業績	P.3
1. 業績のポイントと主要項目	P.4
2. セグメント別・地域別の状況	P.11
2022年通期業績見通し	P.18
2030年のありたい姿実現に向けて	P.22
付属資料	P.39

2022年12月期第2四半期（累計）： (前年同期比)

売上高 9,783 億円 (+1,670億円)

営業利益 1,153 億円 (+201億円)

親会社の所有者に帰属する

当期純利益 712 億円 (+74億円)

- 第2四半期連結累計期間における売上高、営業利益としてはいずれも過去最高

2022年12月期通期見通し：

		(従来予想比)	(前年同期比)
売上高	20,500 億円	(+2,500億円)	(+3,526億円)

営業利益	2,300 億円	(+200億円)	(+238億円)
------	----------	----------	----------

- 原燃材料価格高騰の影響を受けるものの、戦略事業の順調な拡大、製品販売価格の上昇、円安などにより、業績予想を上方修正
- 売上高は初めて2兆円を超えて過去最高、営業利益も過去最高となる見通し

1. 業績のポイントと主要項目

2022年12月期 第2四半期業績

(億円)

	FY2021 1-2Q累計	FY2022 1-2Q累計	増減	主な変動要因 (+)増加要因 (-)減少要因
売上高	8,113	9,783	+ 1,670*	(+) 建築用ガラス、クローラルカリ製品、フッ素関連製品、電子部材、 ライフサイエンスの出荷増加 (+) クローラルカリ製品、建築用ガラスの販売価格上昇 (+) 円安
営業利益	952	1,153	+ 201	上記に加え、 (+) フッ素関連製造設備の稼働率向上に伴う製造原価低減 (-) 欧州における天然ガス価格上昇 (-) 液晶用ガラス基板の新規設備立ち上げ等に伴う減価償却費増加 (-) 原燃材料価格の高騰及び為替の影響によるディスプレイ製造原価上昇
税引前利益	971	1,176	+ 205	上記に加え、 (+) 関係会社売却益 (-) 事業構造改善費用を計上
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	638	712	+ 74	
為替レート (期中平均)	JPY/USD	107.70	122.89	
	JPY/EUR	129.83	134.25	
原油(Dubai,期中平均)	USD/BBL	63.47	101.81	

* うち、為替差影響は+665億円、連結範囲変更の影響は▲174億円

セグメント別業績 前年同期比較

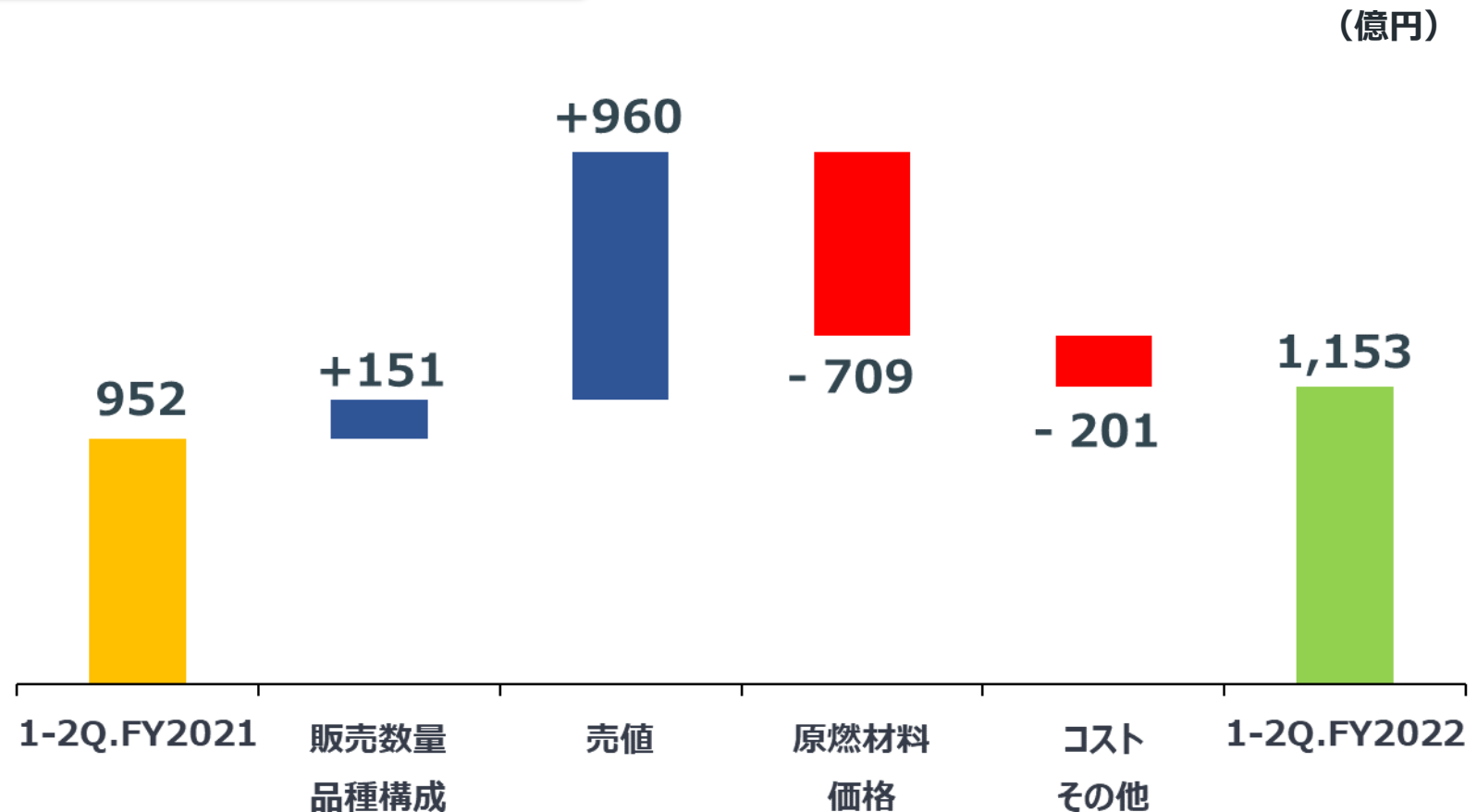
(億円)

	FY2021 1-2Q累計 (a)		FY2022 1-2Q累計 (b)		増減 (b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス*	3,717	201	4,149	114	+ 431	▲ 87
電子*	1,385	142	1,481	92	+ 96	▲ 50
化学品	2,881	595	4,011	926	+ 1,130	+ 331
セラミックス・その他	367	16	435	25	+ 67	+ 9
消去	▲ 238	▲ 2	▲ 293	▲ 3	▲ 55	▲ 2
連結合計	8,113	952	9,783	1,153	+ 1,670	+ 201

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析(1-2Q.FY2022 vs. 1-2Q.FY2021)

前年同期比 201億円増益



連結財政状態計算書

	2021/12	2022/6	増減
現金及び現金同等物	1,958	2,555	+ 597
棚卸資産	3,301	4,187	+ 886
有形固定資産・無形 資産及びのれん	15,067	16,602	+ 1,535
その他	6,334	6,558	+ 224
資産合計	26,660	29,903	+ 3,242
有利子負債	6,032	6,603	+ 571
その他	5,815	6,130	+ 316
負債の部	11,847	12,734	+ 887
親会社の所有者に 帰属する持分合計	13,142	15,144	+ 2,002
非支配持分	1,672	2,025	+ 353
資本の部	14,814	17,169	+ 2,355
負債及び資本合計	26,660	29,903	+ 3,242
D/E比率	0.41	0.38	

(億円)

為替差影響
+2,481億円

連結キャッシュフロー計算書

(億円)

	1-2Q累計	
	FY2021	FY2022
税引前利益	971	1,176
減価償却費及び償却費	796	902
運転資金増減	▲ 175	▲ 527
その他	97	▲ 321
営業活動によるCF	1,690	1,230
投資活動によるCF	▲ 925	▲ 667
フリーキャッシュフロー	765	562
有利子負債増減	▲ 515	182
支払配当	▲ 133	▲ 289
その他	▲ 53	▲ 130
財務活動によるCF	▲ 701	▲ 237
現金等に係る換算差額	56	272
現金等の増加額	119	597

	1-2Q累計 (億円)	
	FY2021	FY2022
設備投資額 *	1,033	1,051
ガラス	252	189
電子	341	416
化学品	431	443
セラミックス・その他	12	6
消去	▲ 3	▲ 2
減価償却費 *	796	902
ガラス	275	278
電子	275	337
化学品	236	277
セラミックス・その他	10	10
消去	▲ 0	▲ 1
研究開発費	238	249

【主な設備投資案件】

- ・自動車用製造窯修繕（ガラス）
- ・ディスプレイ製造窯修繕（電子）
- ・ディスプレイ中国G11投資（電子）
- ・半導体関連製品製造設備増強（電子）
- ・東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- ・フッ素関連製品能力増強（化学品）
- ・バイオ医薬品能力増強（化学品）

など

【主な減価償却費増加要因】

- ・電子部材製造設備増強（電子）
- ・ディスプレイ中国G11投資（電子）

など

2. セグメント別・地域別の状況

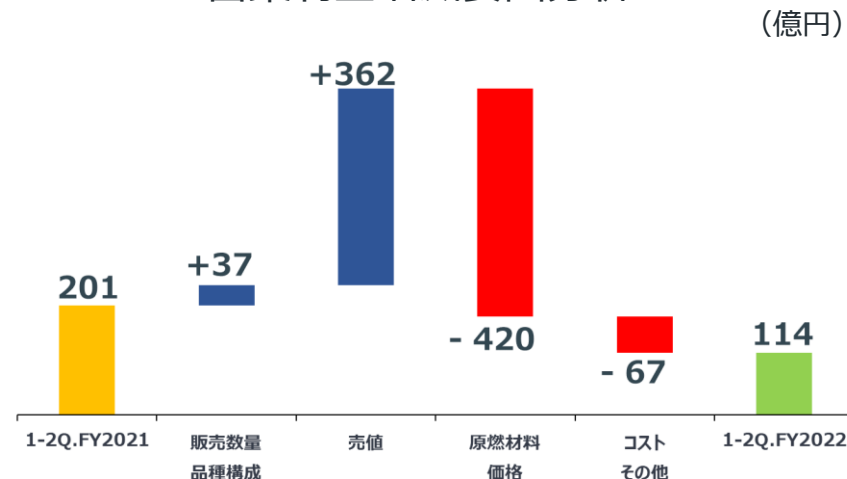
(億円)

	1-2Q累計		
	FY2021	FY2022	増減
売上高 **	3,717	4,149	+ 431 *
建築用ガラス	1,883	2,252	+ 370
自動車用ガラス	1,822	1,891	+ 69
(セグメント間)	12	5	
営業利益 **	201	114	▲ 87

* うち、為替差影響は+296億円、連結範囲変更の影響は▲174億円

** 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析



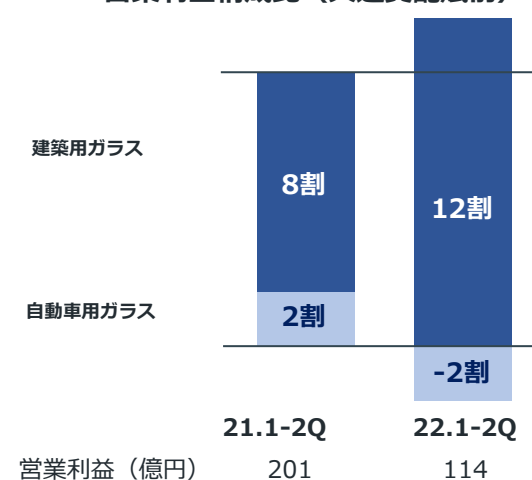
〔建築用ガラス〕

- ・ 南米を除く地域で出荷が増加
- ・ 欧州を中心に全ての地域で販売価格が上昇し、北米事業売却による減収影響をカバー
- ・ 欧州の天然ガス価格が上昇

〔自動車用ガラス〕

- ・ 半導体を含む部品供給不足の影響を受けて出荷が減少したものの、円安などの影響で増収
- ・ 原燃材料価格の上昇や製造設備の稼働率低下などにより、製造原価が上昇

営業利益構成比（共通費配賦前）



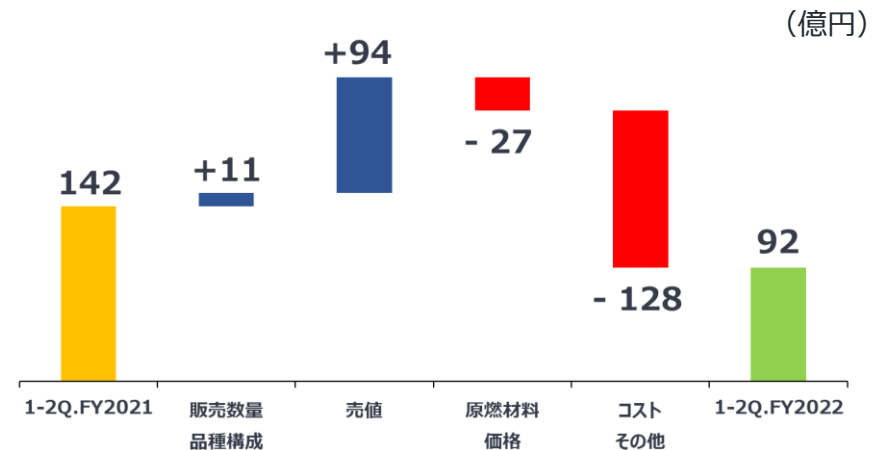
(億円)

	1-2Q累計		
	FY2021	FY2022	増減
売上高 **	1,385	1,481	+ 96 *
ディスプレイ	889	870	▲ 19
電子部材	487	600	+ 113
(セグメント間)	9	11	
営業利益 **	142	92	▲ 50

* うち、為替差影響は+55億円、連結範囲変更の影響は+9億円

** 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析



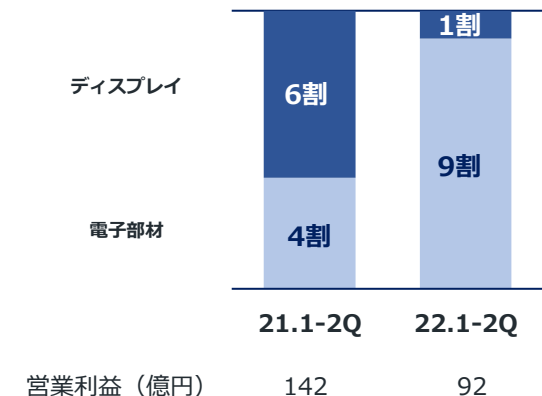
〔ディスプレイ〕

- ・ 液晶用ガラス基板およびディスプレイ用特殊ガラスの出荷は減少
- ・ 液晶用ガラス基板の新規設備立ち上げにより、減価償却費が増加
- ・ 原燃材料高および為替の影響による製造原価上昇

〔電子部材〕

- ・ 半導体関連製品、オプトエレクトロニクス用部材およびプリント基板材料の出荷が増加

営業利益構成比（共通費配賦前）

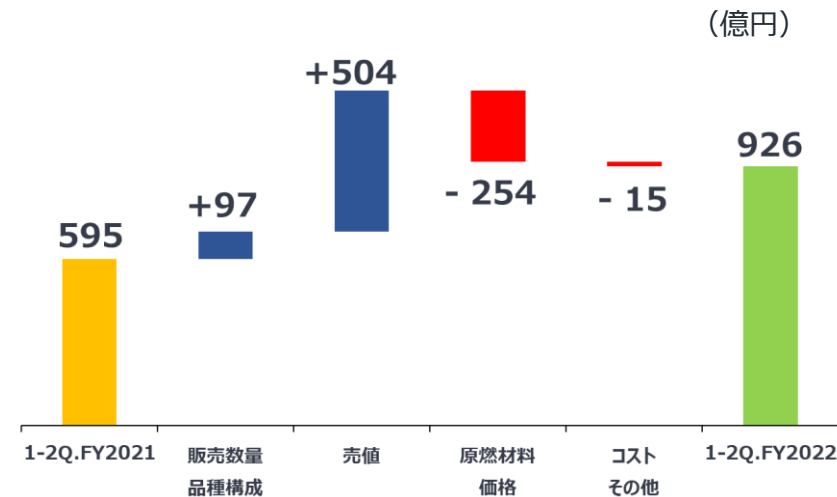


(億円)

	1-2Q累計		
	FY2021	FY2022	増減
売上高	2,881	4,011	+ 1,130*
クロールアルカリ・ウレタン	1,762	2,515	+ 753
フッ素・スペシャリティ	568	749	+ 181
ライフサイエンス	545	739	+ 194
(セグメント間)	7	9	
営業利益	595	926	+ 331

* うち、為替差影響は+305億円、連結範囲変更の影響は▲9億円

営業利益増減要因分析



〔クロールアルカリ・ウレタン〕

- 塩化ビニル樹脂や苛性ソーダなどの出荷が堅調に推移し販売価格が上昇

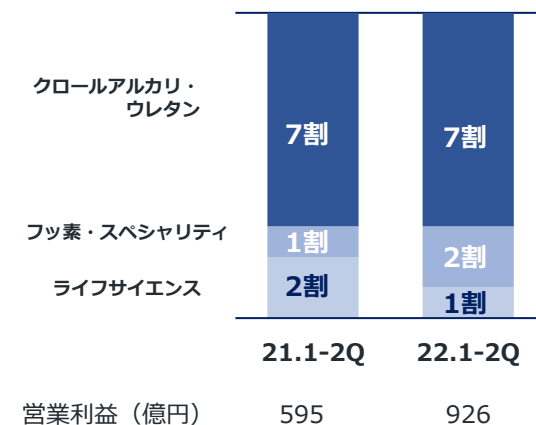
〔フッ素・スペシャリティ〕

- 半導体関連向けを中心にフッ素関連製品などの出荷が大きく増加

〔ライフサイエンス〕

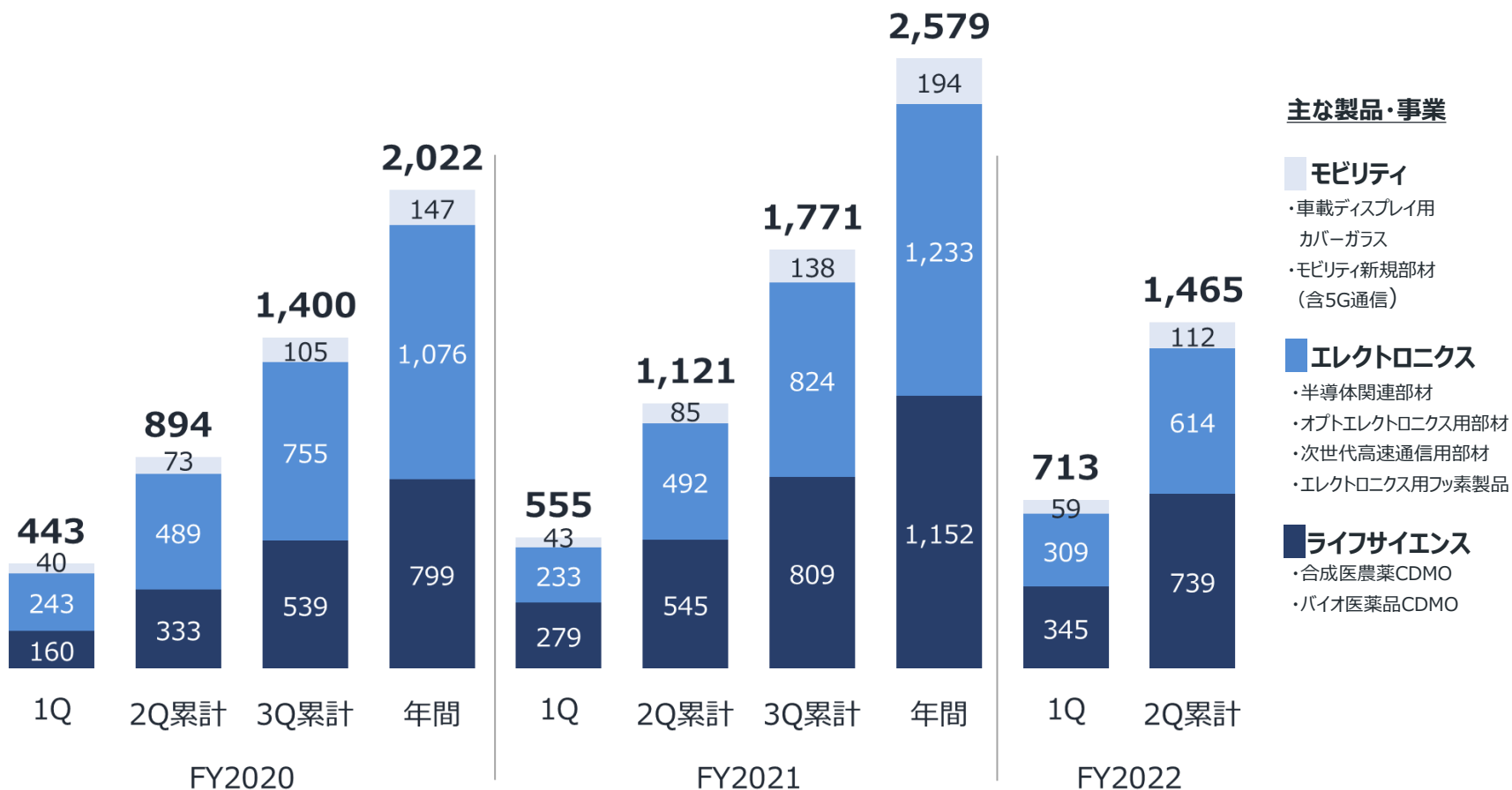
- 合成医農薬CDMOの受託が増加
- バイオ医薬品CDMOは新型コロナウイルス関連の案件も加わり、受託が増加

営業利益構成比（共通費配賦前）



■ 順調に業績を拡大

戦略事業売上高推移（億円）



戦略事業
営業利益

93

177

296

444

113

196

346

538

141

276

（億円）

地域別業績 前年同期比較

	1-2Q累計		(億円)
	FY2021	FY2022	増減
売上高	8,113	9,783	+ 1,670
日本・アジア	5,257	6,347	+ 1,090
アメリカ	895	971	+ 76
ヨーロッパ	1,961	2,465	+ 504
営業利益	952	1,153	+ 201
日本・アジア	837	1,137	+ 301
アメリカ	72	43	▲ 29
ヨーロッパ	231	172	▲ 59
地域共通費用	▲ 187	▲ 199	▲ 12

為替差影響：
+665億円

連結範囲変更：
▲174億円

2022年通期業績の見通し

2022年 通期業績見通し

			(億円)
	FY2021	FY2022 (2/8予想)	FY2022 (8/2予想)
売上高	16,974	18,000	20,500
営業利益	2,062	2,100	2,300
税引前利益	2,100	1,970	2,170
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,238	1,150	1,200
1株当たり配当（円）	210	210	210
	(普通配当160円)		
	(特別配当50円)		
営業利益率	12.1%	11.7%	11.2%
ROE	10.2%	8.8%	9.1%*
為替レート（期中平均） JPY/USD	109.8	115.0	131.0
JPY/EUR	129.9	129.0	138.0
原油（Dubai,期中平均） USD/BBL	69.2	80.0	103.4
エチレン(CFR SEA) USD/MT	1,141	1,070	1,165

* FY2022予想のROEは、2021年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用しています。

セグメント別 売上高/営業利益見通し

(億円)

	FY2021		FY2022 通期予想(8/2予想)		増減		FY2022 通期予想(2/8予想)		増減	
	(a)		(b)		(b)-(a)		(c)		(b)-(c)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス*	7,343	273	8,700	300	+ 1,357	+ 27	7,650	360	+ 1,050	▲ 60
電子*	3,050	368	3,300	300	+ 250	▲ 68	3,450	420	▲ 150	▲ 120
化学品	6,308	1,388	8,100	1,670	+ 1,792	+ 282	6,600	1,300	+ 1,500	+ 370
セラミックス・その他	794	35	900	30	+ 106	▲ 5	800	20	+ 100	+ 10
消去	▲ 520	▲ 2	▲ 500	0	+ 20	+ 2	▲ 500	0	+ 0	+ 0
連結合計	16,974	2,062	20,500	2,300	+ 3,526	+ 238	18,000	2,100	+ 2,500	+ 200

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

22年下期 vs 22年上期	
ガラス	(建築用ガラス) ・原燃材料価格の高騰などの影響が懸念される (自動車用ガラス) ・世界の自動車生産台数は半導体を含む部品供給不足の影響から緩やかに回復 ・原燃材料価格高騰の影響が懸念されるが、価格政策見直し効果の発現が見込まれる
電子	(ディスプレイ) ・液晶用ガラス基板は液晶パネル稼働調整の影響、原燃材料価格の高騰及び円安に伴う製造原価高止まりが懸念される ・ディスプレイ用特殊ガラスは中国でのロックダウンの影響が緩和され、出荷が増加 (電子部材) ・半導体関連製品は一部で一時的な在庫調整があるものの、全体では出荷が増加 ・オプトエレクトロニクス用部材は出荷が増加 ・プリント基板材料は半導体不足の影響などが懸念される
化学品	(クロールアルカリ・ウレタン) ・インドネシアの塩化ビニル樹脂製造設備の能力増強により、出荷は増加 ・苛性ソーダは引き続き高値で推移、塩化ビニル樹脂の市況高騰はやわらぐも、高水準で推移 (フッ素・スペシャリティ) ・半導体関連向けを中心にフッ素関連製品などの需要が堅調に推移し、出荷が増加 (ライフサイエンス) ・能力増強により、バイオ医薬品CDMOの出荷が増加

設備投資額・減価償却費・研究開発費

年間 (億円)

	FY2021	FY2022e
設備投資額*	2,165	2,800
ガラス	509	500
電子	696	880
化学品	942	1,400
セラミックス・その他	22	20
消去	▲ 3	▲ 0
減価償却費*	1,668	1,800
ガラス	546	540
電子	603	680
化学品	500	560
セラミックス・その他	20	20
消去	▲ 1	▲ 0
研究開発費	494	540

【主な設備投資案件】

- ・電子部材関連製造設備増強（電子）
- ・ディスプレイ窯修繕（電子）
- ・東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- ・フッ素関連製品能力増強（化学品）
- ・バイオ医薬品能力増強（化学品）

など

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

2030年のありたい姿実現に向けて

■ 社会的価値と経済的価値の両立により成長

独自の素材・ソリューションの提供を通じて
サステナブルな社会の実現に貢献するとともに
継続的に成長・進化する
エクセレントカンパニーでありたい

企業価値向上

社会的価値

5つの社会的価値
の創出

経済的価値

安定的に
ROE **10%**以上

サステナビリティ経営の推進

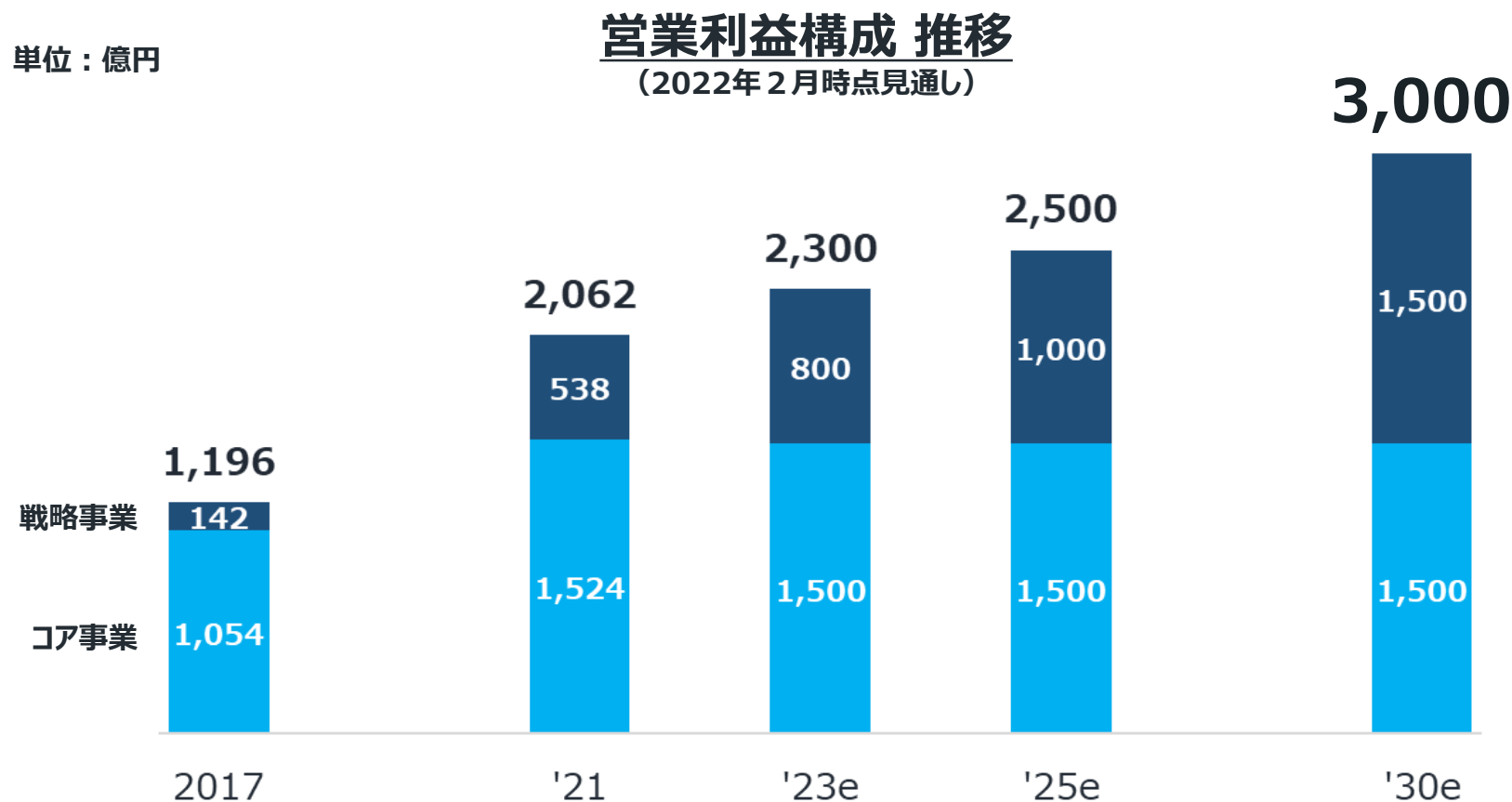


事業ポートフォリオ変革

- 両利きの経営の推進により、市況変動に強く、資産効率・成長性・炭素効率の高い事業ポートフォリオの構築を目指す

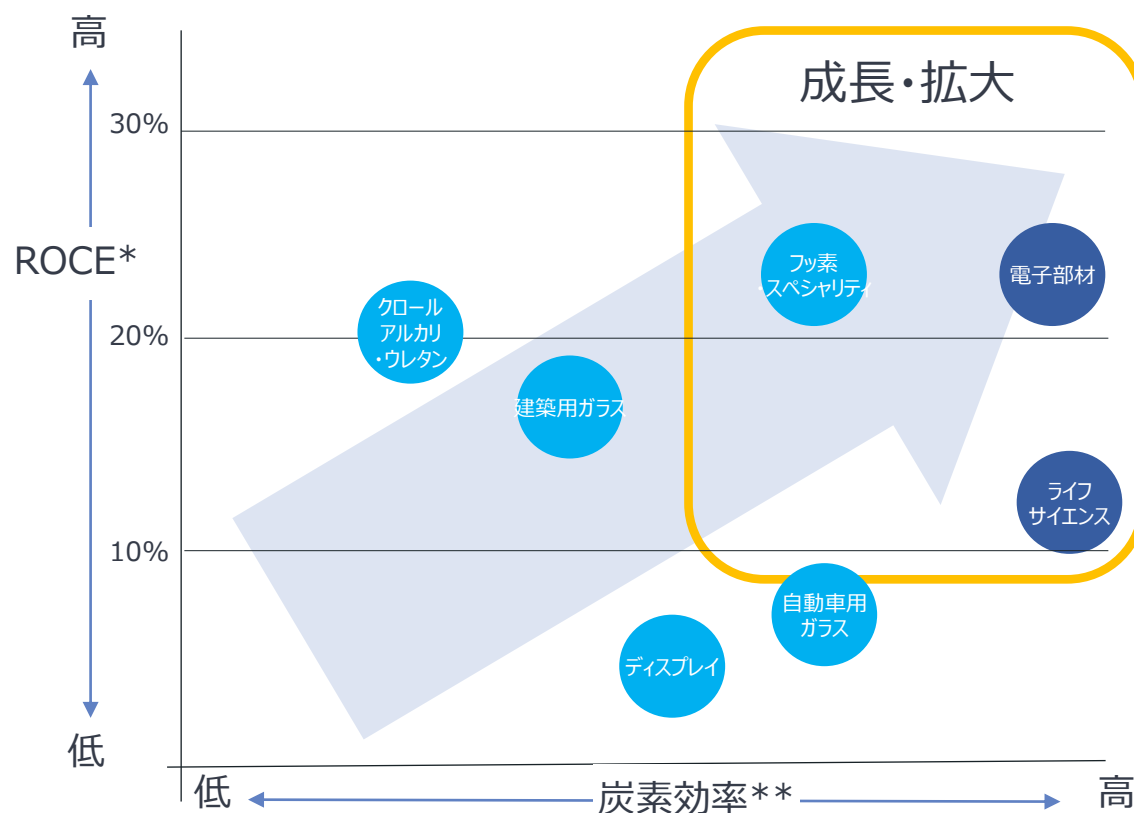


- コア事業を長期安定的な収益基盤に
- 戦略事業は引き続き伸長させ、2030年連結営業利益に占める割合を過半に

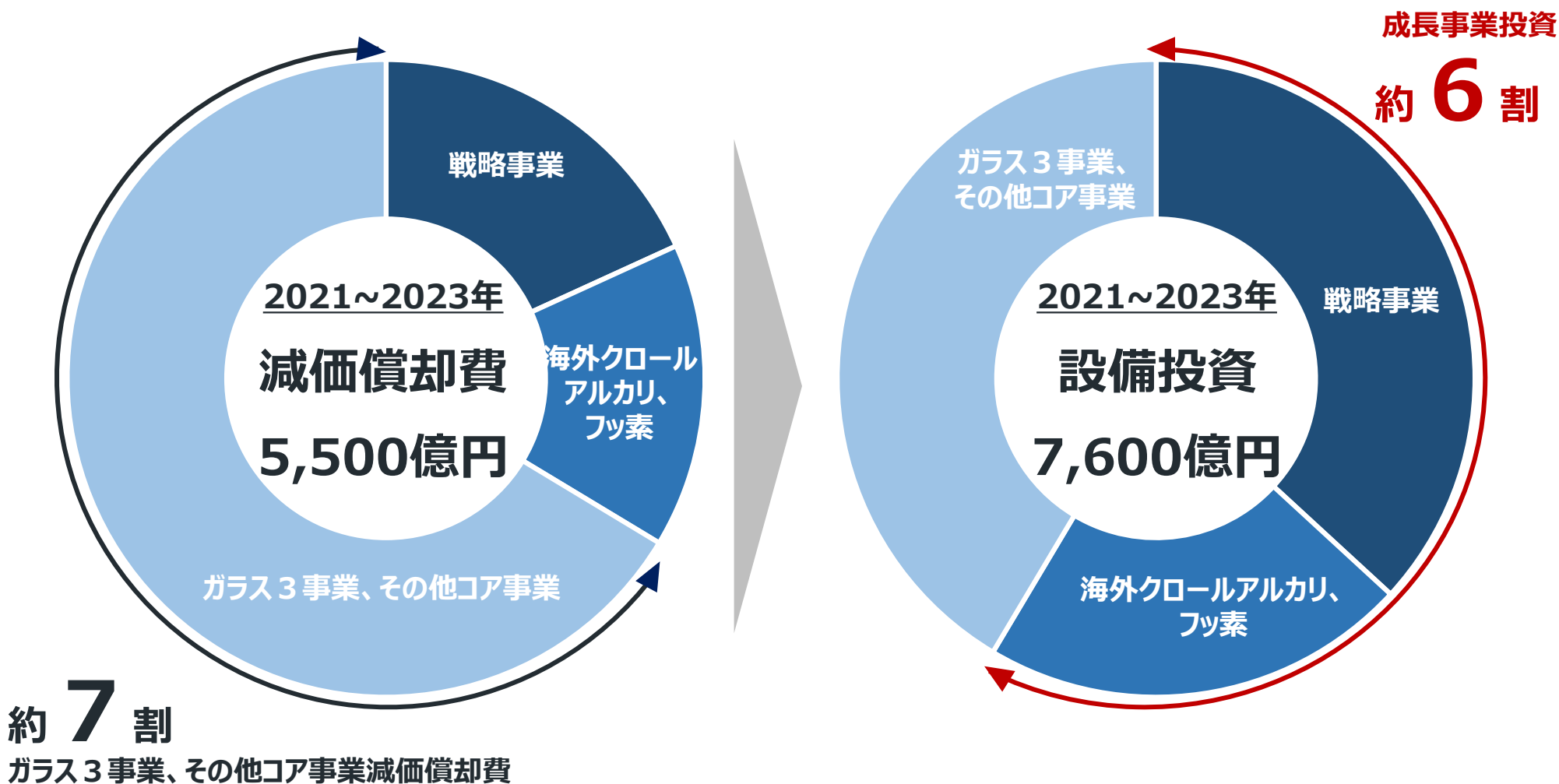


- 炭素効率、資産効率の高い戦略事業を拡大するとともにその他の事業の炭素効率・資産効率を高める

事業ポートフォリオの方向性



■ ガラス 3 事業*、その他コア事業から得たキャッシュを成長事業へ積極投資



2030年のありたい姿 実現に向けての進捗

- 成長事業への積極投資
 - ライフサイエンス事業
 - 東南アジアクロールアルカリ事業
- 自動車用ガラス事業収益改善の進捗
- サステナビリティ経営の進捗

成長事業への積極投資： ライフサイエンス事業（医薬品CDMO）の事業特性

- 多品種型の市場において信頼をベースに継続的なビジネス関係を構築
- 医薬品CDMO市場の高い成長を確実に捕捉

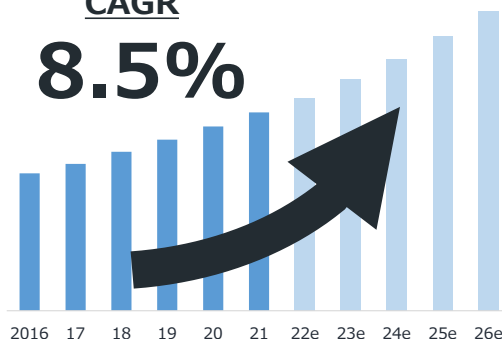
市場

医薬品原薬CDMO市場規模推移

2020-2026年

CAGR

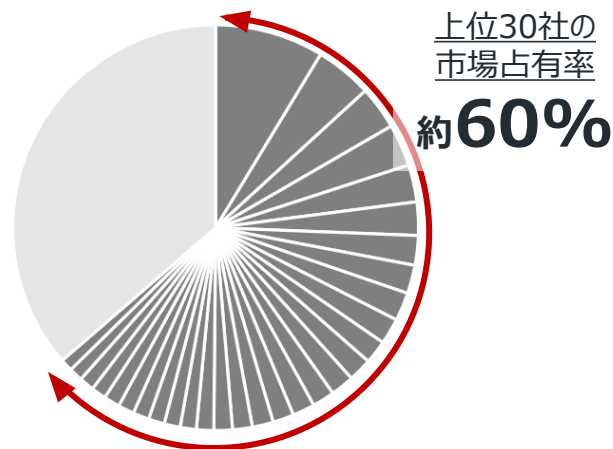
8.5%



- ・製薬業界の外注化の動きを受け、CDMO市場は着実に拡大

業界構造

商用医薬品原薬受託シェア(品目数)*



- ・お客様が非常に細分化されていることを背景に、CDMOも非常に細分化されており、半導体業界のように少数の企業に業界が収斂しない
- ・商用医薬品の受託は一般的に10年以上の単位で継続

自社

AGCの強み

- ・少量多品種に最適なシングルユースバック技術のパイオニアであり、大型ステンレス槽を用いた大規模スケールでの生産能力も保有
- ・日米欧3極の高いレベルのcGMP生産体制のもと、開発初期から商用まで一貫したサービスを提供
- ・高度な品質や技術開発力に基づく豊富な査察実績を有する



成長事業への積極投資： ライフサイエンス事業の更なる事業拡大

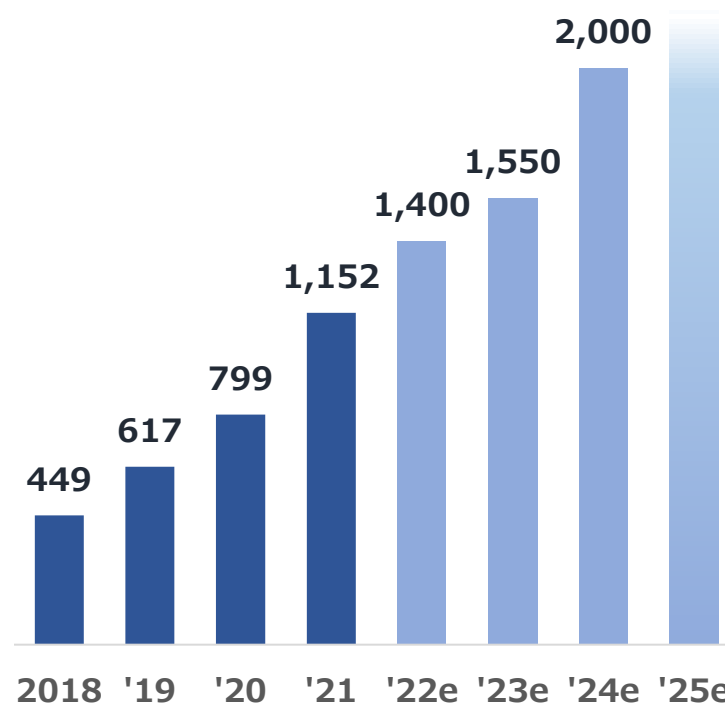
- 21年までに累計約2,000億円の投資を決定、2024年には当初見込みより1年前倒しで売上高2,000億円を超える見込み
- 22年から25年に計2,000億円以上を投資し、更なる事業拡大を図る

ライフサイエンス投資累計額推移*



ライフサイエンス売上高 推移

(単位：億円)



成長事業への積極投資： 東南アジアクロールアルカリの市場構造変化

- 一定の市況変動あるも中国や米国からの塩ビ樹脂流入は限定され、東南アジアのクロールアルカリの市場構造は大きく変化

中国

- ・カーバイド法の過剰設備

Before

- ・市況＞コストになると増産し、一部を東南アジアへ輸出

After

- ・環境問題により輸出余力が減少

東南アジア

- ・インフラ需要が大きく、安定的に年率4%で成長

Before

- ・市況が高くなると中国等から流入があり、市況は一定水準を超えることがない

After

- ・域外からの流入が細り、市況が高水準で安定化
- ・AGCが苛性ソーダ・塩ビとも50%超の圧倒的シェア
- ・AGC以外での大型新增設プロジェクトは具体化せず

米国

- ・低電力コストを背景に高効率生産

Before

- ・限定的ではあるものの、市況＞輸送コストの場合は東南アジアへも流入

After

- ・内需強く、東南アジアへの輸出少ない
- ・余剰能力は特にコスト競争力を喪失している欧州へ

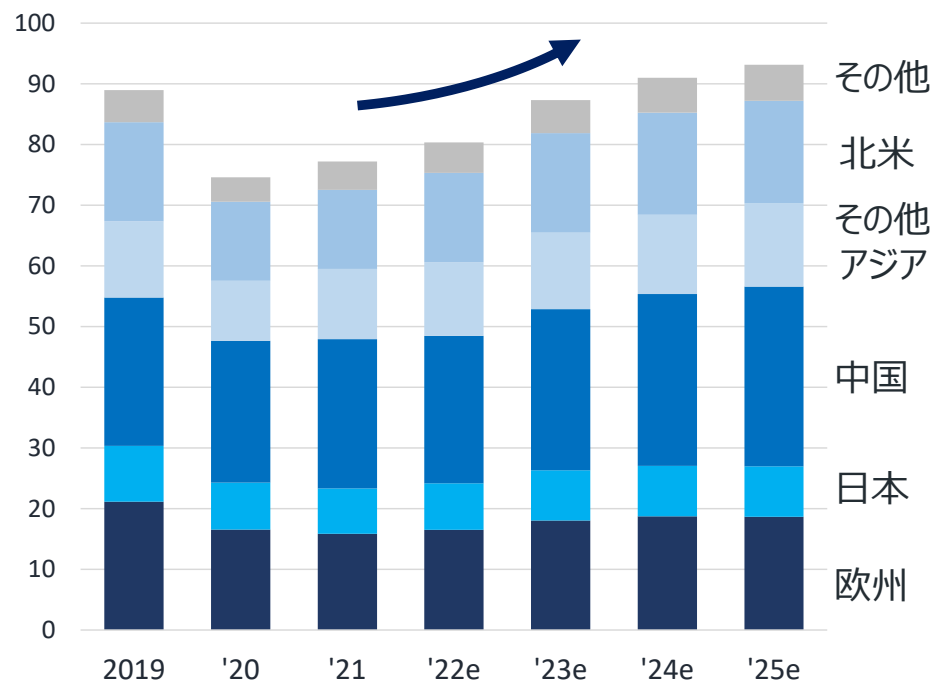
AGCの東南アジアクロールアルカリ事業は強固な高収益基盤を確立

自動車用ガラス事業収益改善の進捗

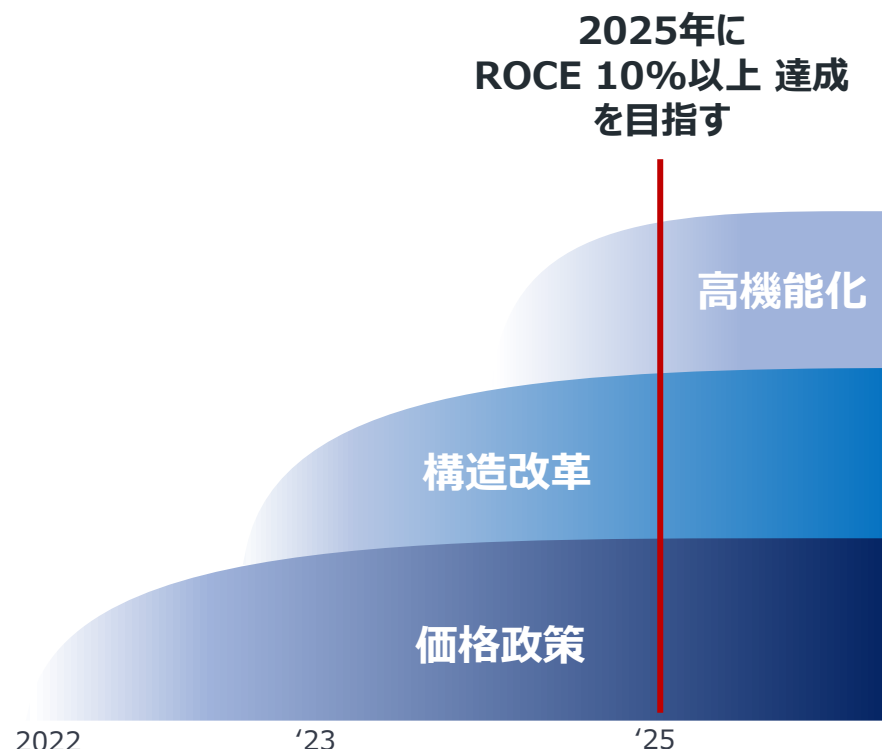
- 22年下期から市場回復トレンドに、24年には19年レベルに
- 価格政策の見直しは着実に進展（主に22年下期以降に発現）
- 構造改革と高機能化も組み合わせ、事業環境の変動に強い体質を構築

グローバル自動車生産台数 推移*

百万台

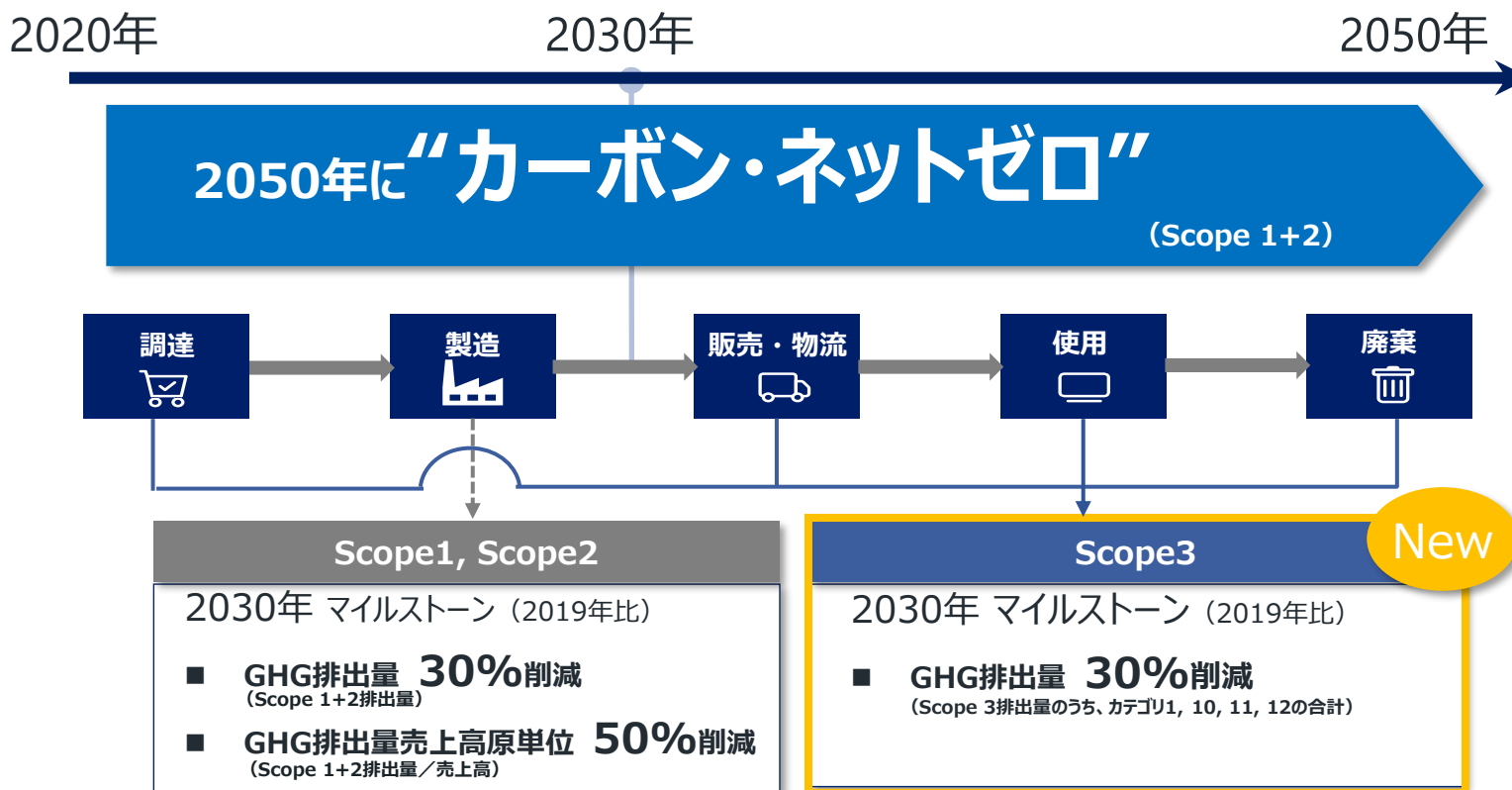


収益改善施策の効果発現イメージ



サステナビリティ経営の進捗： Scope 3 目標を設定

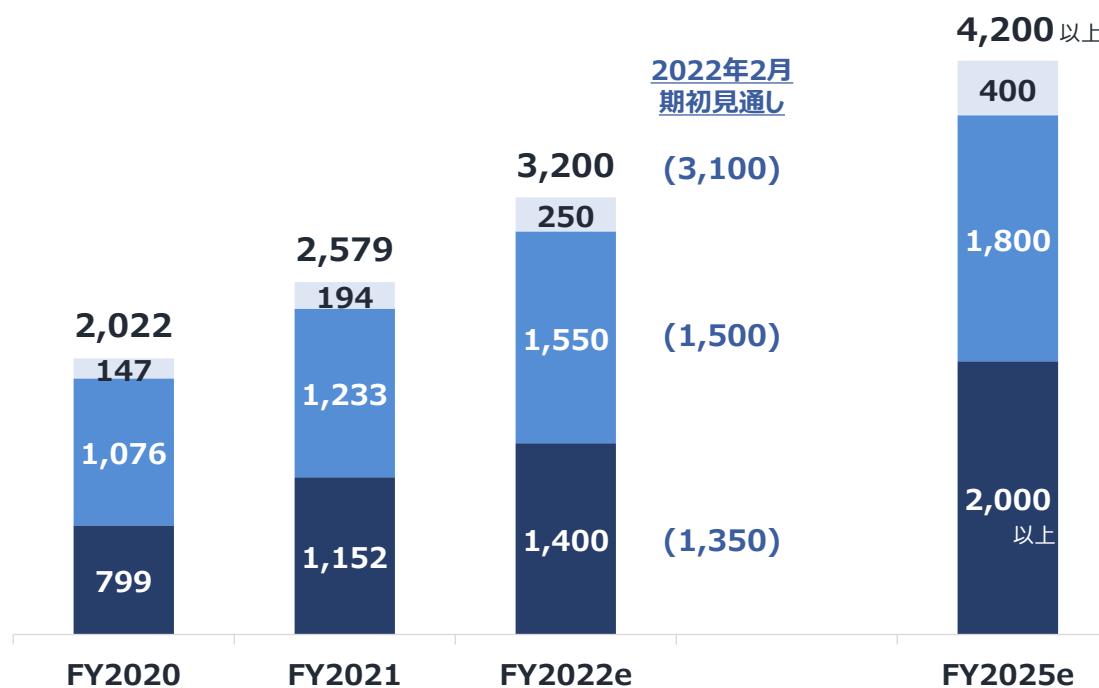
- **AGC-plus 2023** において、2050年カーボンネットゼロ目標を設定
- 2030年マイルストーンとして、Scope1, 2目標に加え、新たにScope3削減目標を設定
- 地球温暖化係数が極めて低い次世代冷媒AMOLEAシリーズの普及注力や、サプライヤーエンゲージメント活動の強化などにより、2030年に30%削減(2019年比)を目指す



本日のまとめ

- 2022年見通しを上方修正。2025年に向け成長が加速
- ライフサイエンスは2024年に売上高2,000億円を達成見込み

戦略事業売上高推移（億円）



主な製品・事業

モビリティ

- ・車載ディスプレイ用
カバーガラス
- ・モビリティ新規部材
(含5G通信)

エレクトロニクス

- ・半導体関連部材
- ・オプトエレクトロニクス用部材
- ・次世代高速通信用部材
- ・エレクトロニクス用フッ素製品

ライフサイエンス

- ・合成医薬CDMO
- ・バイオ医薬品CDMO

戦略事業 営業利益

444

538

700

(650)

1,000 以上

(億円)

2023年営業利益目標を1年前倒しで達成見通し

■ 中期経営計画の2023年営業利益目標を1年前倒しで達成する見通し

	FY2021実績	FY2022 予想	FY2023目標 (22.2月更新)
営業利益	2,062億円	2,300億円	2,300億円
R O E	10 %	9.1%	10 %
戦略事業 営業利益	538億円	700億円	800億円
D/E比率	0.41	0.5以下	0.5以下

独自の素材・ソリューションの提供を通じて
サステナブルな社会の実現に貢献するとともに
継続的に成長・進化する
エクセレントカンパニーでありたい

企業価値向上

社会的価値

5つの社会的価値
の創出

経済的価値

安定的に
ROE **10%**以上

サステナビリティ経営の推進



事業ポートフォリオ変革

AGCブランドステートメント：

易きになじまず難きにつく
人を信ずる心が人を動かす
世界に冠たる自社技術の確立を
開発成功の鍵は使命感にあり

A G Cは、この創業の精神を礎に、
お客様とゆるぎない信頼関係を築きながら、
独自の素材とソリューションで、
時代のトップランナー達を支えてきました。

私たちはこれからも、互いの知見や技術を掛け合わせ、
人々の想いの先、夢の実現に挑んでいきます。

The background of the slide features a silhouette of two climbers on a steep, rocky mountain peak. One climber is positioned higher up, pulling a rope that the second climber is using to ascend. The scene is set against a vibrant sunset sky with hues of orange, yellow, and blue. The overall mood is one of perseverance and achievement.

Your Dreams, Our Challenge

付属資料

セグメント別 ROCE・EBITDA

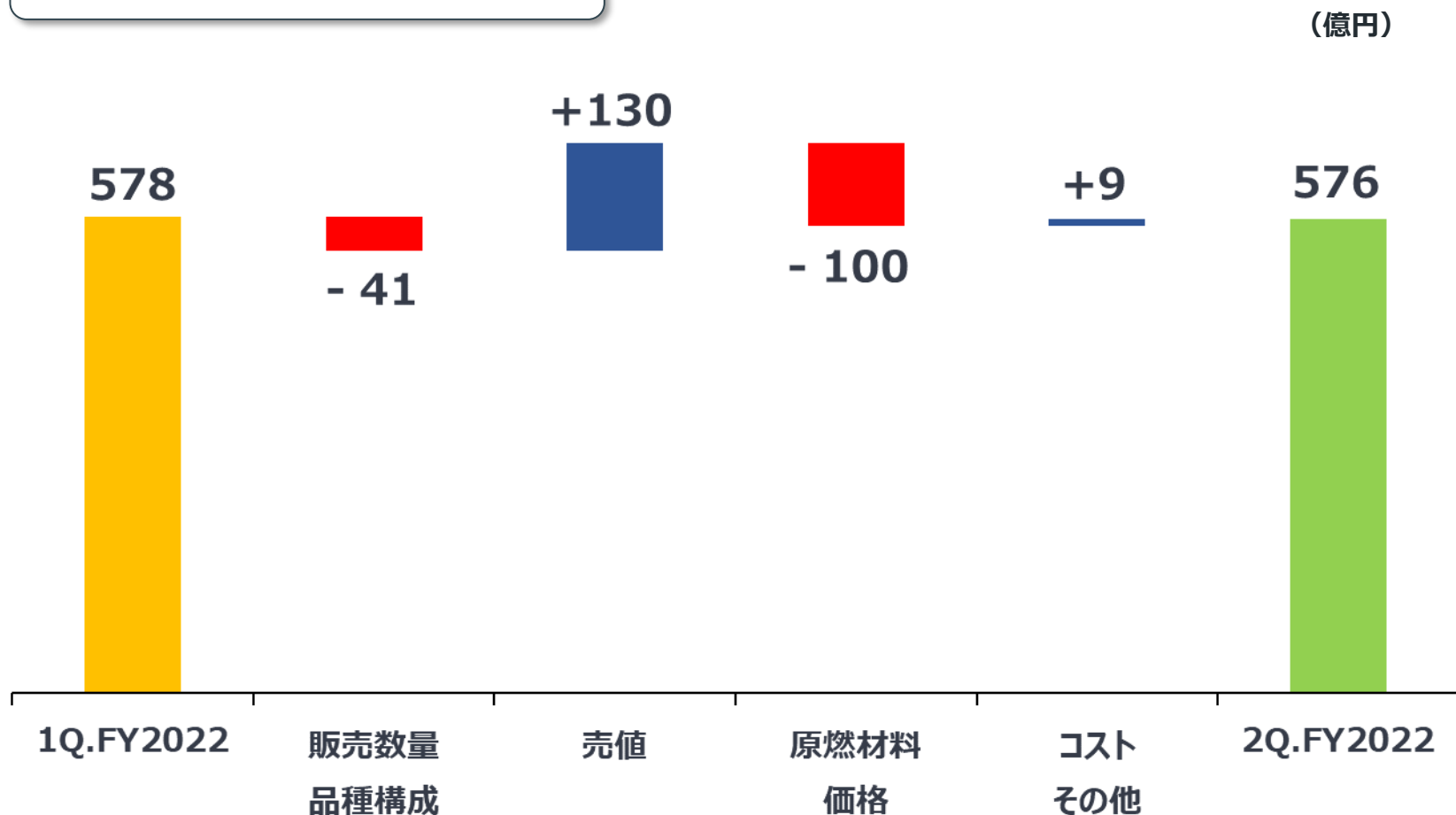
(億円)

	営業利益		EBITDA*		ROCE		営業資産	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
ガラス	▲166	277	344	815	-	4.6%	6,400	6,000
電子	378	364	857	976	6.3%	5.8%	6,000	6,250
化学品	505	1,388	935	1,887	8.9%	21.5%	5,700	6,450
セラミックス・その他	42	35	62	55	14.1%	14.0%	300	250
消去ほか	▲1	▲2	▲2	▲3	-	-	-	-
合計	758	2,062	2,195	3,729	4.1%	10.9%	18,400	18,950

リスク要因	営業利益に対するインパクト	補足
為替	1%円高で <u>7億円</u> *減益	*JPYに対して全ての通貨が同じ割合で動いた場合の影響額
ドバイ原油	1バレルあたり1ドル上昇した場合、 <u>2.6億円</u> *減益	*ヘッジ影響除く
化学品 市況	①苛性ソーダ： 国際市況が\$ 1 下がると\$ <u>1 M</u> の減益 ②塩ビスブレット： \$ 1 下がると\$ <u>1.2M</u> の減益*	*塩ビスブレット： 塩ビ市況－（エチレン市況 ×0.5）

営業利益増減要因分析(2Q.FY2022 vs. 1Q.FY2022)

前四半期比 2億円減益



売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

日本・
アジア アメリカ ヨーロッパ セグメント間 合計

ガラス	建築用ガラス	2 Q .FY2022	361	80	773	-	1,214
		2 Q .FY2021	288	155	548	-	991
	自動車ガラス	2 Q .FY2022	472	201	283	-	956
		2 Q .FY2021	490	157	268	-	915
		2 Q .FY2022	833	280	1,057	2	2,172
		2 Q .FY2021	778	313	816	6	1,912
電子		2 Q .FY2022	651	62	3	6	722
		2 Q .FY2021	620	63	3	5	690
化学品		2 Q .FY2022	1,651	172	261	5	2,090
		2 Q .FY2021	1,208	94	203	4	1,508
セラミックス・その他		2 Q .FY2022	86	-	-	150	236
		2 Q .FY2021	82	-	-	109	191
消去		2 Q .FY2022	-	-	-	▲ 163	▲ 163
		2 Q .FY2021	-	-	-	▲ 124	▲ 124
合計		2 Q .FY2022	3,221	515	1,321	-	5,057
		2 Q .FY2021	2,687	469	1,021	-	4,178

売上高 セグメント・地域別展開 前年累計比較

(億円)

日本・
アジア アメリカ ヨーロッパ セグメント間 合計

ガラス	建築用ガラス	1-2 Q.FY2022	681	143	1,429	-	2,252
		1-2 Q.FY2021	567	281	1,036	-	1,883
	自動車ガラス	1-2 Q.FY2022	982	383	526	-	1,891
		1-2 Q.FY2021	1,003	298	521	-	1,822
		1-2 Q.FY2022	1,663	526	1,955	5	4,149
		1-2 Q.FY2021	1,570	579	1,557	12	3,717
電子		1-2 Q.FY2022	1,332	133	6	11	1,481
		1-2 Q.FY2021	1,255	116	5	9	1,385
化学品		1-2 Q.FY2022	3,186	313	504	9	4,011
		1-2 Q.FY2021	2,276	200	399	7	2,881
セラミックス・その他		1-2 Q.FY2022	167	-	-	268	435
		1-2 Q.FY2021	157	-	-	210	367
消去		1-2 Q.FY2022	-	-	-	▲ 293	▲ 293
		1-2 Q.FY2021	-	-	-	▲ 238	▲ 238
合計		1-2 Q.FY2022	6,347	971	2,465	-	9,783
		1-2 Q.FY2021	5,257	895	1,961	-	8,113

(億円)

ガラス	2Q.20	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22
売上高	1,249	1,717	1,851	1,806	1,912	1,729	1,896	1,976	2,172
建築用ガラス	706	840	901	891	991	916	1,011	1,038	1,214
自動車用ガラス	534	869	943	908	915	808	881	935	956
(セグメント間)	8	7	7	7	6	5	3	3	2
営業利益	▲ 182	▲ 12	53	95	106	51	21	40	74

電子	2Q.20	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22
売上高	693	715	792	695	690	797	868	760	722
ディスプレイ	433	448	458	461	429	474	457	450	420
電子部材	247	257	316	230	257	318	405	304	296
(セグメント間)	13	10	19	4	5	5	5	5	6
営業利益	85	99	106	87	55	103	123	80	12

化学品	2Q.20	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22
売上高	983	1,091	1,296	1,373	1,508	1,626	1,800	1,922	2,090
クロールアルカリ・ウレタン	559	632	755	822	940	1,030	1,112	1,217	1,298
フッ素・スペシャリティ	247	250	278	269	299	329	343	356	393
ライフサイエンス	173	207	260	279	265	265	343	345	393
(セグメント間)	5	3	3	3	4	3	3	4	5
営業利益	75	98	180	255	340	365	427	452	474

数量・価格動向

				2021				2022	
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
前年同四半期比 (YoY)									
ガラス	建築用ガラス (AGC)	日ア	数量	+1割	+1割強	-1桁半ば	横ばい	+1割	+1割強
			価格	-1桁半ば	+数%	+1割	+1割強	+2割弱	+約2割
		欧州	数量	微増	+約3割	+1割弱	+3割弱	+10%台半ば	微減
			価格	+1割弱	+4割弱	+約4割	+4割弱	+5割弱	+7割弱
	自動車用生産台数 (IHS Markit 7/1データより)	日本	数量	-4%	+55%	-23%	-17%	-13%	-12%
		北米	数量	-4%	+132%	-26%	-14%	-1%	+12%
		欧州・ロシア	数量	+1%	+84%	-32%	-23%	-18%	-4%
電子	ディスプレイパネル需要* (Omdia社)	グローバル	面積	+17%	+10%	-3%	+4%	+4%	-5%

*Source : Omdia-Display Long-Term Demand Forecast Tracker – 1Q22 Pivot

Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.

		IFRS				
		17/12	18/12	19/12	20/12	21/12
売上高	百万円	1,463,532	1,522,904	1,518,039	1,412,306	1,697,383
営業利益	百万円	119,646	120,555	101,624	75,780	206,168
営業利益率	%	8.2	7.9	6.7	5.4	12.1
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	69,225	89,593	44,434	32,715	123,840
自己資本当期純利益率（ROE） ^{*1}	%	6.1	7.7	3.9	2.9	10.2
総資産営業利益率（ROA） ^{*2}	%	5.7	5.4	4.4	3.1	7.9
自己資本比率	%	53	51	50	44	49
D/E（有利子負債・純資産比率）	倍	0.38	0.43	0.47	0.63	0.41
営業CF/有利子負債	倍	0.42	0.35	0.32	0.29	0.54
一株当たり当期純利益（EPS） ^{*3}	円	302.12	399.51	200.85	147.84	559.11
一株当たり配当金	円	105	115	120	120	210
EBITDA ^{*4}	百万円	249,880	259,425	231,857	208,459	383,226
為替レート（期中平均）	円/ドル	112.19	110.43	109.05	106.82	109.80
	円/ユーロ	126.66	130.42	122.07	121.81	129.89

*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計（期中平均）

*2 営業利益/総資産（期中平均）

*3 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。

*4 EBITDA（支払利息・税金・減価償却費控除前利益）＝税引前利益＋減価償却費＋支払利息

その他の財務指標についてはこちらを参照ください。https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf

サステナビリティ “製品・技術”を通じて社会的価値を創出

重要機会

AGCグループの主な素材・ソリューション

社会的価値

関連するSDGs

気候変動問題への対応

建築用ガラス、グリーン冷媒、自動車用
赤外線カットガラス、バイオマス炉用炉
材等

持続可能な地球環境の実現
への貢献



資源の有効利用

燃料電池用部材、リサイクル原料使用
製品（ガラス・耐火物等）

社会インフラの整備

建築用ガラス、苛性ソーダ、次亜塩素酸
ソーダ、重曹、塩ビ等

安全・快適な都市インフラの
実現への貢献



安全・快適な
モビリティの実現

自動車用ガラスアンテナ、車載センシ
ング・レーダー用部材、HUD部材等

情報化・IoT社会の構築

建物窓取付アンテナ、半導体製造用部材、
ディスプレイ用ガラス、高速通信用部材
等



食糧問題への対応

農薬原体・中間体、農業温室ハウス用
フィルム等



健康・長寿社会への対応

医薬品原体・中間体、高速通信用部材、
水処理用高機能膜等

安心・健康な暮らしの実現
への貢献



サステナビリティ“健全な企業活動”を通じて社会的価値を創出

重要リスク

気候変動問題への対応

資源の有効利用

社会・環境に配慮した
サプライチェーン

地域社会との関係・
環境配慮

公正・平等な雇用と
職場の安全確保

AGCグループの企業活動

継続的な省エネ対策実施、GHG排出量を低減する生産技術・設備開発 等

再生原材料や再生資材の活用、埋立て処分の削減 等

人権尊重・環境保護を重視したサプライヤー管理 等

水使用量削減、生物多様性保全、環境事故撲滅、地域のファン作り 等

従業員エンゲージメントの向上、重篤災害・休業災害の発生防止 等

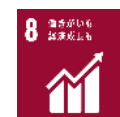
社会的価値

持続可能な地球環境の実現
への貢献

健全・安心な社会の維持
への貢献

公正・安全な働く場の創出
への貢献

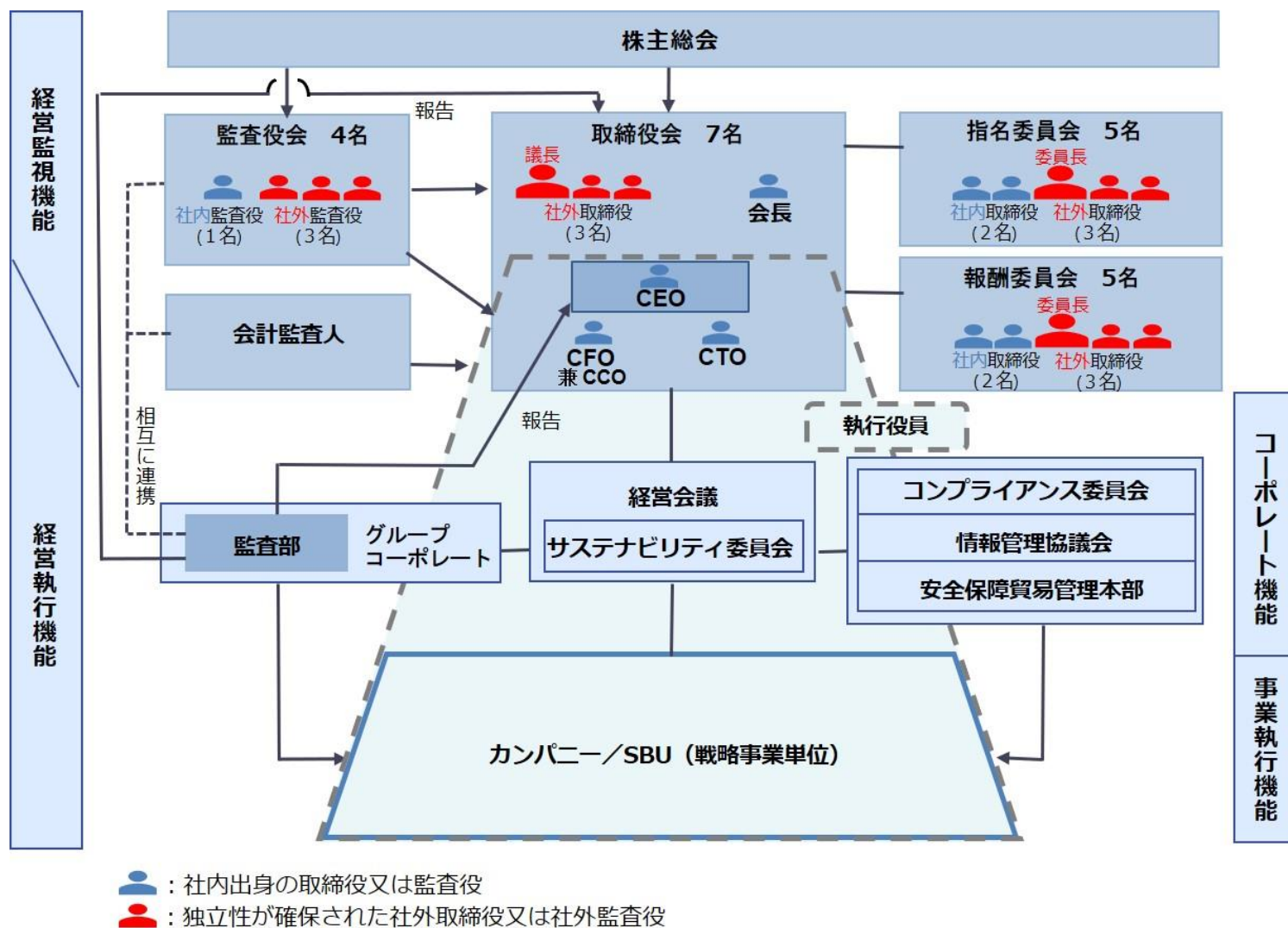
関連するSDGs



2022年 主要発表事項

発表日	内容
1月13日	A G Cの参画するアンモニア燃焼技術開発プロジェクトがNEDO委託事業へ採択
1月25日	EUV露光用フォトマスクブランクス生産能力を倍増
2月8日	中期経営計画 AGC plus-2023 の進捗状況および長期経営戦略「2030 年のありたい姿」実現に向けた取り組みについて
2月8日	減損損失の計上に関するお知らせ
2月21日	次世代パワー半導体材料開発のノベルクリスタルテクノロジーに追加出資
3月9日	3年連続で「健康経営優良法人～ホワイト500～」に認定
3月11日	国内の5G Sub6帯全周波数に対応したガラスアンテナを開発
4月6日	スペイン合成医薬品生産拠点の設備増強を決定
5月6日	タイでクロール・アルカリ事業の能力増強を決定
5月10日	自動車用ガラス事業の収益改善策について
5月10日	Solvay Soda Ash Joint VentureおよびSolvay Soda Ash Extension Joint Venture の全株式の譲渡を決定
5月13日	地球温暖化係数の低い次世代冷媒AMOLEA®1123の新組成を開発
5月18日	AGC Biologics社、米国における遺伝子・細胞治療CDMOの製造能力を増強
5月23日	「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加
6月8日	「DX銘柄2022」に選定
6月10日	Scope 3 排出量の削減目標を設定
7月6日	国内建築用ガラス関連製品の価格を改定
7月26日	AGC Glass Europe社、Lowカーボンガラスの発売を発表

当社のコーポレートガバナンス体制



FTSE4Good Index Seriesに選定	
FTSE Blossom Japan Indexに選定	
CDP Climate Change A- 評価	
「第5回日経スマートワーク経営調査」4星の格付けを獲得	
女性活躍推進に優れた企業を選定する「なでしこ銘柄」に昨年選定	
「健康経営優良法人2022ホワイト500」に選定	
EcoVadisサプライヤー評価で最高ランクを取得 「PLATINUM」：鹿島工場、AGC Pharma Chemicals Europe社 他国内外複数拠点で高評価	
Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2022に選定	
「DX銘柄2022」に選定	



Your Dreams, Our Challenge

END

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。